

## 医学部内科学第二講座

## 糖尿病

原  
山木戸道郎均

わが国の糖尿病人口は  
急速に増加している

従来、わが国の中高年者における糖尿病の罹病率は三～六%程度であるとされ、欧米諸国と比べこの頻度は明らかに低率であり、このことは日本人の特質と考えられていた。しかし、厚生省の死亡調査によると近年わが国の糖尿病死者数は着実に増加しており、その増加曲線は国民栄養調査における脂肪摂取量の増加や自家用車の登録台数の増加と並行していることが指摘されている。さらに、昨年の日本糖尿病学会において、四〇才以上の地域全住民における糖尿病罹病率は約一〇%に上昇していることが数施設から報告された。

## 日系米人を対象とした

## 医学調査成績

一九七〇年以来、当内科では米国の大ハワイ

島やロスアンゼルス地区在住の日系米人（遺伝的に純粋な日本人）と広島県住民を対象とした医学調査を継続している。生活習慣の欧米化が進行しているこれら日系米人社会では糖尿病罹病率が広島県住民の二～三倍も高率であった。数多くの日系人データを解析すると、「肥満」、「運動不足」、「高脂肪食」などが糖尿病高罹病率の重要な因子となっていることが判明した。遺伝的にほぼ同一と考えられる日系人社会において、環境因子の変化、特に食生活を含む生活習慣の欧米化に基づく肥満・運動不足・高脂肪食などにより糖尿病罹病率が著しく高率となっていることから、これららの因子は日本人の糖尿病発症に重要な因子であると考えられる。さらに、日系人の死因調査では虚血性心疾患（心筋梗塞）による死亡率が急増していることも本調査から明らかとなっている。

日本人の歴史を振り返つてみると、過去数千年は飢餓との戦いであり、我々の先祖はその試練に耐え抜いて来たと思われる。しかし、

約三〇年前からわが国は飛躍的な経済発展を遂げ、現在は飽食・運動不足・肥満との戦いの時代とも言える。はたして全ての日本人はこの新しい社会環境に適応するだけの遺伝子を持ち合っているのであろうか？確かに戦後厚生省によって推進された生活改善により肺結核や脳出血による死亡は近年減少し、今やわが国は世界最長の平均寿命を誇っている。しかし、ハワイやロスアンゼルス日系人の医学調査はわが国における節度ある生活習慣の欧米化が必要であることを教えていると考えられる。

## 糖尿病の種類

糖尿病は現在二種類に分類されており、インスリン依存性糖尿病は以前若年型糖尿病ともいわれ、全体の約五%の頻度と比較的希である。しかし、この型の糖尿病は臍臍のインスリン分泌細胞（ $\beta$ 細胞）が破壊されるため治療には毎日のインスリン注射が必要となる。わが国における糖尿病の多くはインスリン非依存性糖尿病（成人型糖尿病）であり、糖尿病の遺伝因子（内因）を持つ人に肥満、過食、運動不足、ストレスなどの悪い環境因子（外因）が加わるとインスリン作用の不足が生じ、発症すると考えられており、この型の糖尿病が最近増加している。